February
2024

第 25 号

ピースデポ 脱軍備・平和レポート

特定非営利活動法人
ピースデポ
http://www.peacedepot.org/
Email office@peacedepot.org

被爆体験
講話録

- 原子雲（げんしぐも）
- 恐ろしい原爆のちから（1） 爆風
- 恐ろしい原爆のちから（2） 熱線
- 恐ろしい原爆のちから（3） 放射能

[講演録] 日本平和学会 2023 年度秋季研究集会　平和教育分科会
地球市民学の学び：『ピース・アルマナック 2023』を用いた学習プログラム　松井ケテイ（清泉女子大学教授）

[報告] 核兵器禁止条約第 2 回締約国会議の成果
浅野英男（核兵器廃絶日本 NGO 連絡会事務局）

トピックス
国際司法裁判所、イスラエルにジェノサイドを防ぐための措置を命じる / 2024 年の「終末時計」、人類滅亡まで 2 年連続で残り 90 秒 / 北朝鮮、韓国がそれぞれ軍事偵察衛星を打ち上げ / 米韓の第 2 回「核協議グループ」会合と北朝鮮の ICBM 発射 / 沖縄防衛局、辺野古新基地埋立てで大浦湾側の工事を開始 / 米軍、屋久島沖での CV22 オスプレイ墜落事故でオスプレイ全機を飛行停止に

連載　全体を生きる（47）　梅林宏道
災害装備のこと、北朝鮮のこと

平和を考えるための映画ガイド
「フランスの英雄」という存在――『ナポレオン』

日誌　2023 年 11 月 16 日～ 2024 年 1 月 15 日

[被爆体験講話録]　第 4 回「脱軍備・平和基礎講座」

原爆にあった日の話

―長崎に来たんだもん、平和のバトンを受けてください―

八木道子（元小学校教諭）

2023 年 9 月 30 日、機会ある限り被爆者の生の言葉から学び続けようと被爆体験講話として 2023 年度第 4 回基礎講座を開催した。講師は元小学校教諭の長崎で被爆した八木道子さんである。彼女は爆心地から 3.3 キロの鳴滝町で被爆。当時小学 1 年生（6 歳）。家には兄姉弟の 5 人だけだった。一瞬にして聞こえなくなった蝉の声、異様な空の色、火傷を負った体に湧く無数のウジ虫と異臭は今もはっきり記憶にある。最後に勤務した城山小学校では 1400 名余りの児童と先生が命をなくした。修学旅行生に話かける口調で、戦争は最大の差別、平和とはどういうことか考えようと問いかけている。本稿は、講話録を基に編集部が抄録として作成し、著者の校正を得たものである。

こんにちは。長崎から発信したいと思います。長崎に修学旅行でたくさんの小中高生がきます。その子どもたちに、その時、長崎がどうであったかの話をしています。被爆者という言葉を出します。そして子どもたちに、今一番若い被爆者は何歳だと思う？と尋ねます。何年か前までは皆さんパッと答えることはできませんでした。でも今は皆さんたくさん学習をしてこられて、７８歳と答えてくれます。長崎、広島で原子爆弾が爆発してもう７８年になります。私は子どもに言います。皆さんが中学、高校、大学、大人になった頃、必ず新聞やテレビが取り上げるでしょう。広島・長崎で最後の被爆者が死にましたって。あと10年経ったら一番若い被爆者が88歳。そのあと 10 年経ったら 98 歳です。私なんてもう 100 歳過ぎて、居ません。最後の被爆者が死にました。その時に皆さんどう思いますか？そしたらもう原子爆弾の話なんておしまい。もう過去のこと、昔のこと、なんてみんなから忘れ去られてしまったら、何のため死んだのということになります。

だから私は子どもたちに、「長崎に来たんだもん。平和のバトンを受けてください」と言います。運動会でバトンを受けて走るでしょ。それと同じ。長崎に来たんだから、平和とはどんなことを言うんだろうってバトンを受けてって言います。小学生はどうしていいかわからずに困った顔をします。だから私は言います。「難しいこと考えなくていいのよ、みんな学校に帰ったら 5 年生 4 年生 1 年生にでも長崎で見てきたこと聞いたことを話してください。それがバトンをつなぐことになるんです。黙ってても平和は向こうからやってはきません。だからみんなで平和のバトンをつないでください」っていうことから私は始めます。

原子雲（げんしぐも）

「これ何雲って？と言うと思う？」、はじめはみんな黙ってます。私たちはきのこ雲って言ったのよって。どうしてきのこ雲って言ったの？どうみても「きのこ」の形でしょう。原子爆弾がバーンて爆発した時にできた雲を「きのこ雲」と言いました。でも本当の名前は原子雲です。原子爆弾が爆発してできた雲だから原子雲です。原子爆弾なんていう言葉は知りませんでした。子どもの私たちが知らないならまだしも、大人も知らなかったのよ。だから新型爆弾なんて広島の後には言いましたよね。これが長崎で原子爆弾が爆発した時の原子雲です。

ミサイル飛ばしたわけじゃないよ。ボタンを押したわけでもないよ。「原子爆弾は B29 という飛行機に乗せてやってきたのよ」って言います。飛行機に乗せるぐらいだから、そんなに大きくはないでしょ。一瞬にして 7 万人もの命が奪われてしまったんです。長崎の資料館の中には長崎で爆発した原子爆弾の模型があります。長さは 3m25㎝です。直径 1.5m だから飛行機に乗せてやってくることができたんです。それこそ 1 万ｍぐらい高

いところから。1 万mっていうのは富士山から考えてみてよ相当高いところでしょ。そこから人間の手によって、私たちは落下とは言いません。落下というのは「落とす下」って書いて落下です。原子爆弾は人間の手によって投下されました。投下の目的は何だったの。投下の目的は人の命をみんな奪ってしまうこと。そこに生活をしてた人たちの家をみんな壊してしまうこと。

原爆資料館の中に入ったらすぐこの時計があります。11 時 2 分で止まってます。私はいつも、できたら講話を聞いた後に資料館に入ってくださいというお願いをしてます。11 時 2 分、原子爆弾が爆発した時間です。だから時計は止まったのよ。人間の命もよ。子どもたちの命、11 時 2 分までは生きて遊んでたの。確実に子どもたちは生きて遊んでました。時計が止まったのと同じ自分の一生。3 分がないのよ。11 時 2 分まで子どもたちは確実に生きてたんです。11 時 3 分を迎えることができなかった人たちがどんなにたくさんいたか。

これは被爆 2 日前の爆心地一帯の写真です。黄色の印がついてるのが爆心地です。ここで「バーン」と爆発しています。黒いのがたくさんあります。これはみんな家です。家がたくさんありました。ここ赤く囲ったのは団地です。団地だからたくさんの家がありました。堀江って書いてますが、私のいとこの家があった。5 人全滅です。「この 2 日前の写真、誰が写したと思う？」と子どもに尋ねます。「撮影は米軍よ」って。そうこれは米国が写した写真です。米国が悪いねなんて私は言いません。この戦争を始めたのは日本です。日本が始めた戦争だったのよ。だから日本だって相手の国のことはしっかり調べてました。

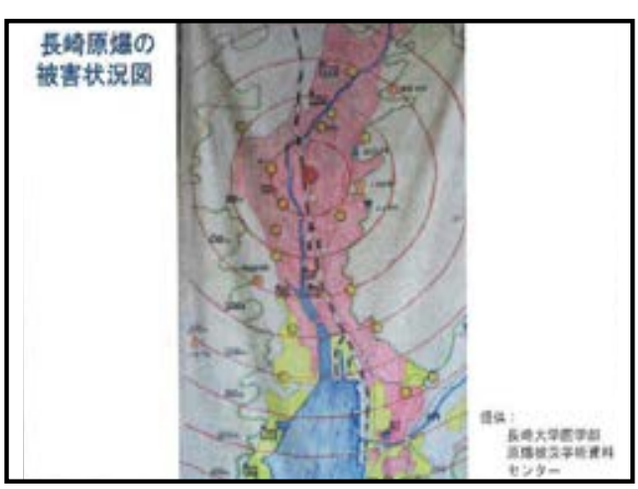
それで、これが投下の翌日に写された爆心地の写真です。たくさんの人が倒れて亡くなってるのわかりますか。もう黒焦げです。叩きつけられるようにして人間がこの姿で亡くなってしまう。立って歩いてる人がいますよね、何か書いてる人もいます。近所からたくさんの人たちが、遠く離れたところから親戚の人の家はどうなっただろうとみんな来たの。爆心地の方、松山の方、みんな訪ねてきてます。この辺りはまだたくさん放射能が残ってたんです。だからその放射能の影響でこの今歩いている人たちも後から後遺症が出てます。これが本当に翌日人間が一瞬の間に命を奪われてしまったところです。

2 日前の米軍がとった写真には、黒いのはみんな家、団地もあった。それが投下の 1 か月後の写真には、家はないじゃない。団地なんて影も形もないでしょ。白い線は道です。道だけが残りました。真ん中黒いのが走ってるのは川です。残ったのは川と道だけでした。私たちは原子爆弾が爆発した後に水はやるなって言われたのよ。水やったら死ぬぞ。原子爆弾にあった人はみんな大火傷で本当に体から水分は奪われてます。やけどで、喉が痛い。だから水をください、水をくださいとたくさんの人が水を求めました。防火水槽なんかには水がありました。水のところに行った人たちがみんな顔を突っ込んだようにしてバタバタバタバタして死んでるんです。水のところでたくさんの人が死んでる。だから水はやるなって言われたんです。でもとにかく水が欲しいんです。

この爆心地あたり一帯の人はまだ動ける人はいました。即死の人がずいぶんですけど、まだ動ける人は川に行ってます。川に行けば水があるって事は分かりますよね。水を求めて。人間イカダってわかりますか？人間イカダが出来上がったんです。男か女かわからない。子どもなのかお年寄りかもわからない人間イカダが出来上がった。浦上川にたくさんの人間イカダが、浮いてます。たった一発の原子爆弾が爆発したことで本当に 7 万人からの命を奪われてしまった。

地図を書いてきました。真ん中の赤いところは爆心地です。1 万 m ぐらい上から原子爆弾が投下され地面につく 500m 上で爆発した。赤く塗ってるのは長崎の町の燃えてしまったところです。爆心地真ん中の赤いところから火がどんどん燃えていき、県庁出島は昼前には火が出ました。本当に長崎は火の海です。燃えてしまった中の黄色い丸は学校です。小学校が主です。子どもたちの家はどうなってしまったのか。もう燃えてしまいました。

被爆 2 日前の爆心地一帯



私も孫がたくさんいるんですけど、一番下の孫が私に、「おばあちゃん原子爆弾を積んできた飛行機はどうなった」と聞きました。「飛行機は投下するのと同時に飛んで行ってしまったのよ」って答えました。「おばあちゃん原子爆弾を投下した人は捕まった？」と聞きました。7 万からの人が亡くなってるんです。つかまりなんかしていません。それが戦争です。私は戦争はダメというよりも、戦争は始めたらダメと言います。始めたら終わらせないとダメなわけです。どうすれば戦争は終わるの。今のロシアとウクライナを考えてみてください。ロシアがせめたのは去年の 2 月。学者の先生たちは戦争 2 か月もすれば終わりますよとよく言ってました。でも 1 年経っても終わりません。もう今 1 年 7 か月。世界中を巻き込み終わるどころじゃないでしょう。だから私は子どもたちに言います。戦争だけはどんな理由があっても始めてはだめ。戦争を始める前にやることがあるでしょう。それが外交。話し合いです。クラスでも話し合いをするでしょと。すぐ暴力で友達を叩くんじゃなくてまず話し合いなさいと学校でも習ってきたよねと。国もそうです。

恐ろしい原爆のちから（1）　爆風

まず最初に半分近くは爆風でやられた。ある小学生が「八木さん、大きな台風が吹いたって何万人が死んだって聞いたことないよ僕達」って言いました。大型台風でもせいぜい 1 秒に 45m とかぐらいでしょ。その時みんなでシャッター閉めたりします。原子爆弾が爆発した時は 400 mです。桁が違うでしょ。そばにいたら 1 秒でもう 400 mいってるのよ。原子爆弾が爆発した時の爆風です。だから家なんてほとんどもう瞬間で吹き飛ばされた。それをよく示してるのが爆心地から 600 mの浦上天主堂です。天主堂は、木で作ったものじゃないですよ、レンガです。原子爆弾が投下される前、浦上の天主堂はこの姿でした。11 時 2 分に原子爆弾が投下され、このようになってしまったんです。さっきまであったはずの天主堂の上がありません。横にはマリア様とかイエス様の像がいっぱいあったのよ。今から資料館の中に入ってみて、石で作ったマリア様の首が飛んでるとか、イエス様の耳が削げてるとか、石で作ったマリア様イエス様が人間だったらどうなるっていうのを考えてみてよ。だから資料館の中にはこの天主堂が壊れたものがいっぱい置いてあります。そしてもう 1 回子どもたちに見てもらいます。左が原子爆弾が爆発する前、それが爆発した瞬間、右のようになってしまったんです。それから私は、天主堂だからアンジェラスの鐘はあったのよ。この鐘楼、割れて壊れて川の中にドーンと落ちて、今でも川の中にある。もう 78 年経ってますから、土がかぶり、草なんかもついている。この前、修学旅行できたある子どもが「早く片付ければいいのにね」って小さな声で言ってました。そばにいた男の子が「どんなにして片付けるのか。これクレーンでは上がらないぞ」と子どもたちも言ってました。

長崎にもお寺はあります。聖徳寺というお寺の鐘が入ってた鐘楼です。屋根そのものが土台から持っていかれた。聖徳寺は爆心地から 1400m のこんなに離れてるところです。それでもあの状態です。

爆心地から 150 mしか離れてない道を走ってた焼け焦げた路面電車です。電車だからお客さんは乗ってたんですよ。お客さんいないね。乗ってたお客さんはどこ行った？。電車の窓、屋根ないです。これが爆風です。爆発した瞬間そばを走ってた電車はこの状態です。乗ってた人たちは何が起きたか考える暇もなく吹き飛ばされ、叩きつけられて命を奪われています。

恐ろしい原爆のちから（2）　熱線

原子爆弾が爆発した時、熱線が出ます。爆心地あたりの地面は 3000 度から 4000 度だったと言われています。子どもたちに「みんなお風呂に入るのは何度？」と聞くと 42 ～ 3 度ね。鉄が溶けるのは何度？ 1800 度ぐらいで鉄は溶けるのよ。子どもたちに爆心地公園で見つかったガラスの瓶を見てもらいます（実物を見せつつ）。瞬間で溶けてしまってる。形もない。人間だったらどうなるのよ。

今、爆心地公園は広くなってます。そしてこの前も東京から来た修学旅行の男子高校生を案内したんです。ここが 500m でバーンて爆発したとこよと言ったら、高校生が、「八木さんよかったですね、公園の上で爆発して」って言ったんです。私は、「違います。今でこそ公園になってるけど、ここにはたくさんの家があったのよ。お店もあった。生活をしてた場所なんよ」と答えました。

長崎に来た皆さん、どうぞご覧になってください。被爆の地層というのを見ることができるんです。家の瓦もご飯食べるお茶碗も家が一瞬にして潰されてしまってる状態を見ることができます。家よ、家よ。人間がそこにいたのよ。人間は一瞬にして押しつぶされてしまって。戦争が終わって原子爆弾が爆発した後、本当に私たちは生活がきつかった。もう何年もの間はそのままにしてあ

りました。やはりきれいにしようということで何年か後、新しい土をたくさん爆心地の公園に入れました。土をたくさん持ってきて公園にしたのよ。じゃあ入れた土もう一回のけてみようか。「土のけたら、まだ骨はあるのよ」と私が言います。頭とかの大きな骨はきちんと祀ってあるけど、指の骨、足の骨、そんなのまでは拾えていません。だからこの下ではまだ本当に骨が眠ってる、そういう状態なんです。

この写真は谷口稜曄（すみてる）さんというヒバクシャです。2017 年に亡くなりました。谷口さんは赤い洋服を着てたわけじゃないのよって子どもに言います。この時、谷口さん 16 歳。郵便配りをしてたのよ。郵便配りだから制服はきちんとあるわけでしょ。そして 11 時 2 分原子爆弾がバーンとなって飛ばされた。しばらくして気がついて谷口さんまず立ち上がって左手を持ち上げた。左手からなんかぶら下がってた。左手の皮が全部むけて取れてる。まず左手の皮膚を引きちぎった。それから僕は背中に手を持って行って右手でさわって見た。血で真赤になってる背中です。黙って子どもたちは見ます。

私は尋ねます。「この写真はいつ写したと思う？」8 月 10 日？。違います。じゃあ 9 月 9 日、違う。じゃあ 10 月 9 日？、違うのよ。この写真を写したのは半年後に大村の海軍病院で映された写真です。半年経ったって背中の皮膚できてないでしょ。でも谷口さんは、「僕は 2 年から 3 年近く上向いて寝たことないよ。2 年経ったって背中の皮膚なんかできてこないんだ」と。だから 2、3 年はずっとうつ伏せになって寝てたのよ。うつ伏せだから胸のところに床ずれができて本当に痩せてらした。

谷口さんがずっと言ってたことがあるんです。山口仙二さんをはじめ被爆者がみんな言う言葉です。核兵器だけは使わないでください。核兵器使ったら人間どうなってしまうの。あれば使う。でも今、核兵器はね、まだこんなたくさんあるのよ 1 万 2 千発。広島、長崎で爆発したものよりもっともっと大きな力を持ってる核兵器がまだ 1 万 2 千近くあるのよ。一番たくさん持ってるのはロシア。それから米国、中国、フランス。本当にたくさん。９つの国が核兵器を持ってる。もちろん日本は持っていません。

谷口さんら被爆者がずっと言ってるのが核兵器禁止です。核兵器だけは使わないでください、人間が人間の姿でなくなってしまう。本当に地球が壊れていきます。谷口さんが亡くなる 3 か月前に 122 の国が賛成して条約は成立した。でも、この核兵器禁止条約には９つの国は入っていません。だから私たちは９つの国も入って、そして地球上から核兵器だけはなくそう。それが本当に谷口さんたち被爆者の願いです。

この写真を出したら子どもはびっくりしてじっと見ます。黒焦げの少年。そうです顔の形、鼻、口、目きれいに残ってます。足の指の一本一本だって数えることできるでしょ。この写真が原爆資料館に何年か前に出ました。その時、80 才過ぎの妹さん 2 人がこの写真を見た瞬間、私たちのお兄ちゃんに間違いないと言った。お兄ちゃんの小さい時の写真を持って行ってどうぞ調べてください。骨格など調べて多分、谷崎君に間違いないだろうっていう結果が出た。この時、中学校 1 年生です。なぜ中学校 1 年生がこういう姿で命を奪われないといけなかったのか。本当に悲しくなります。子どもはじっと見ます。谷口さんは背中が真っ赤だったねって。この中学校 1 年生は真っ黒でしょ。それは原子爆弾が爆発した時にどこにいたかでこれだけ違いが出てるんです。

谷口さんは爆心地から 1800 mの住吉町で原子爆弾にあい、あの背中の火傷です。谷崎君は、爆心地のすぐそばで原爆にあった。何千度っていう熱風を受けてます。体の中には水分がたくさん入ってます。谷崎君は着てた洋服なんか一瞬にして焼けてます。髪なんかもちろん焼けた。体の中には水分がたくさんありますが、水分は一瞬にして奪われます。内臓の水分も一瞬にして奪われる。でもこの谷崎君は腐るということがない。体から水分完全に奪われてしまってるんです。

私は、「じゃあ戦争してた頃のお話を少しするね」って子どもに言います。中学生、女学生は学校になんか行ってないのよ。でもねお兄ちゃんたちかっこよかったよ。戦闘帽かぶって足にはゲートルを巻いて、毎日行ってました。「気をつけ」して、お兄ちゃんもお姉ちゃんもみんな学校へ行ってる。私たち小学生は学校と思ってたから、「お兄ちゃんお姉ちゃんどこ行くの」って尋ねました。行ってたところは学校ではなく、兵器工場です。兵器工場が長崎にはたくさんあった。今、日本は戦争をしよるんだから、みんな協力するっていう感じで、中学生は兵器工場に行ってた。

城山小学校に見学をして戻ってきた子どもたちには言います。城山小学校は小学校でしょ。何で小学校に女学生の「かよこ桜」があるの？ 「かよこ」さんは女学生です。城山小学校の中の兵器工場に行ってて原子爆弾にあって命を奪われてしまったの。私は今でも頭に焼き付いてます。中学生が何をしに兵器工場に行くのか、建物疎開です。建物疎開って分かりますか。建ってる建物を引き倒すんです。建物が燃えたら工場が燃える。兵器工場に火が移ったら困るということです。だから第一次の建物疎開は三菱の兵器工場のすぐそばでした。それを手伝ったのも中学生です。まず瓦を下ろす。それから大きな柱に紐をつけて、それをみんなで引き倒すんです。私はその建物疎開をしてるのを見たこともあって、なんていうことをするんだろうと思った。

例えば今、地震が来たら、みんなすぐ携帯やパソコン、テレビで調べたりするね。戦争時代はそんなの何にもないよ。テレビもインターネットもない。私たちに教えてくれるのはサイレンだけだったのよって言います。サイ

レンが 6 秒なって 3 秒休む。これが 10 回繰り返されるんです。空襲警報発令です。敵の飛行機が来たぞ、みんな防空壕に入れです。空襲警報発令なんて口では言ってくれません。ただ鳴るだけです。そしたら私たちは急いで黒い布切れで作った防空頭巾を被ります。黒い布で作れと言われたんです。空襲警報が出てる時に白い洗濯物を干してたら「何考えてるんだ」って怒られます。白い洗濯物だと上から目立つ。警報がなったらみんな防空壕に逃げました。穴を掘っただけであかりも何にもない。そういう中にみんなで逃げた。昼間だけ飛行機来るわけじゃない。夜寝てる時に空襲警報がなったら子どもに起きなさい、起きなさいと体を揺すって起こします。大声を出してはいけない。空襲警報が出たらずーっと見回りが歩いてる。子どもの声が聞こえるとすぐ注意されます。あかりなんかつけたら明かりが漏れてると注意されますから、私たちは真っ暗な中で防空頭巾かぶって、防空壕に入りました。私のうちはもう父が死んでいましたから、防空壕掘るなんてことはできませんでした。玄関の畳の下、床の下、ネズミとかゴキブリがいるような、そういうところが私の家の防空壕でした。空襲警報が出たらもうすぐに床下に入りました。

「戦争の時一番何が悲しかったとおもう？」と子どもに尋ねます。私が一番悲しかったのは食べるもんがずっとなかったことよ。お米のご飯なんて食べた記憶はありません。パンなんてもちろんないです。サツマイモも食べたことはない。私が食べてたのは「かぼちゃ」。今の「かぼちゃ」はこんな小さくて黄色で柔らかいでしょ、違います。戦争時代のカボチャは本当に大きかった。皮も厚いし黄色じゃなく白かった。それをただ炊くだけ。味噌汁？味噌なんて売ってないです。食べるものがなかった。私たち子どもは、みんな山や野原に行って葉っぱを見つけて、これ食べれるかな？この実は食べれるかな？と言いながらみんなで探しました。椎の実は美味しかったけど、どんぐりは渋くて食べれません。どんぐりと椎の実、なんでも拾います。だから元気のいい男の子は言いました。石ころ以外は何でも食べれるぞ！お腹が空いてたまりませんでした。

時には嬉しいこともあったのよって子どもに言います。ある時うどんの配給がありました。干したうどん、嬉しかったねあの時は。今日はうどんよ！子どもとお母さんの丼ぶり 6 つ並べて、どのように分けたと思う？うどんを 1 本ずつ数えて分けたのよ。食べる時もつるってなんて食べません。つるって食べたらあっという間になくなるでしょ。私たちはどんぶりを引き寄せて、うどんを 2cm から 3cm ぐらいに切って、その後ももったいないから一つずつ食べました。

私は周りの大人に聞きました。「お米のご飯は誰が食べてるんですか」と。「お国のために戦ってる兵隊さんが食べておられます」という答えが戻ってきました。その時、私は納得しました。それなら私たちは我慢しようと思いました。でもよく考えてみてください。兵隊さんも食べるもんがなくて餓死した兵隊さんがいっぱいいる。餓死した兵隊さん、マラリアになって亡くなった兵隊さん、死んでから骨も戻ってきてない兵隊さんがいっぱいいるでしょ。だから戦争だけはね、するもんじゃない。どういうことがあっても戦争だけはダメだねって。

8 月 9 日、原子爆弾が爆発した日です。朝から出てたんですよ、空襲警報は。私たちはみんな防空頭巾をかぶって防空壕の中に入ってたのよ。11 時 2 分の 2 時間ぐらい前にまたサイレンがなったんです。今度のサイレンは低いんです。これは空襲警報解除の合図です。敵の飛行機が来る心配ない、空襲警報解除と 20 秒間なったんです。だからみんな防空頭巾を外して子どもたちは外に出て遊び始めたんです。電車だって動き始めた。兵器工場も始まった。そこに 11 時 2 分がやってきたんです。私たちは子どもだけ 5 人で家で遊んでました。そしたら飛行機の音が聞こえてきたんです。飛行機だ！見よう！だって空襲警報解除だから。敵の飛行機だなんて思っていません。私たちは 2 階まで上がって縁側に出て、（今でいうベランダのようなとこですね）兄弟 5 人で飛行機に向かって（日本の飛行機と思ってるから）手を振ったのよ。それこそ頑張れって言おうと思ってね。手を挙げた瞬間、光った。赤、黄、青の雷さん、稲光、あんな風に稲光がピカッて光りました。でも私はそのピカーって光ったのよりも音の方がびっくりしました。光った瞬間、原子爆弾がドーンってなりました。私たちは原子爆弾っていう言葉を知りませんでしたので、ピカっと光ってドーンだから、ピカドンにやられた！防空壕に入るため階段を降りたのではなく、吹き飛ばされました。私は 3.3 ㎞離れた鳴滝町ですよ。でも家の中をバーって風が吹き抜けていき、ザーっていう音と同時に風がバーっとなって、瞬間、頭を伏せました。でも何の音もしません。恐る恐る頭を持ち上げてみました。タンスも襖も障子もみんな吹き飛ばされてしまってた。うわーって思って私は急いで父の仏壇を見つけようとしたんです。父は 2 月に亡くなったばかりだったから。もちろん仏壇は飛ばされてました。何で私がお父さんにこだわるかというと、父は中学校の英語の先生だったの。英語はダメよ。敵国語を教えるなんてけしからん。だから子どもに私が今、冗談みたいにして言うんです。大谷選手なんて今もボンボン打つ選手がいるね。ストライクなんかパーって入れるね。でもストライクと言ったらダメよ。ストライクは敵の国の言葉でしょ。ストライクのことは「よし」って言った。ボールのことは「ダメ」って言った。それくらい敵国語がダメで、敵の国の言葉を教え、しかも私の父は結核という病気で死んだんです。周りの人は敵の国の言葉を教え、結核になって死んで国の役に立たたなかったという風な父の評価でした。でも父はとっても優しい

人でした。でも命は無くしてしまって、仏壇も飛ばされた。

私が自分の家を見た瞬間なんて思ったと思いますか。家が裸になってる。瓦が飛んでいます。ドアも飛んで、家が裸だ。お隣の家も裸だ。朝から鳴いていたセミの声はピターっときこえなくなりました。何の音もしません。雲がばーっと上を覆って、暗くなりました。その中を私たちは逃げました。

私たちは、みんなで鳴滝町の防空壕に行きました。規模が大きいと言ったって窓なんかない。鳴滝町の防空壕はトンネルです。トンネルと言っても水道管です。本河内という水源地から鳴滝の方に引いてる水道管を入れた長いトンネルがあったんです。みんなが大丈夫ね、大丈夫ねって、周りのおばちゃんたちから声かけてもらいます。夕方になって、あのかっこよかった中学校のお兄ちゃんが戻ってきました。大火傷して戻ってきました。みんなで大丈夫ね、大丈夫。でも水はやれんからねとおばちゃんたちが話しかけて、そして夕方遅く真っ暗になってから私の母が戻ってきました。子どもはいますかと母が泣き叫んだようにして戻ってきました。母はたくさんの女学生が兵器工場で亡くなった県立高等女学校の教師をしてました。お母さんが生きてた！本当にその時は嬉しかった。でも翌日やはり母は、私たちに防空壕から出ないように言って、女学生を探しに出て行きました。

恐ろしい原爆のちから（3）　放射能

子どもたち 5 人はみんなお腹を壊しました。髪が抜けていく人、鼻血が出て止まらない人。それはなぜ、放射能です。放射能なんて知りません。周りの大人も今度の爆弾には毒が入っとったんじゃないか。毒が入ってたから髪が抜けたり、鼻血が出たり、私たちみたいにお腹を壊したんじゃないか。じゃあこの毒を消す方法は何だと思います？この柿の葉っぱを煎じて飲んだらいいって言うんです。戦争の時、私たち子どもは柿の葉っぱをそのまま口に入れて、一生懸命噛みました。どうぞ体から毒が消えますようにと。

子どもに「戦争はいつ終わった？」って私は聞きます。小学生はなかなか答えが出ませんけど、中高校生は 8 月 15 日と言います。15 日に終わるぐらいなら何で 1 週間前に終わってくれなかったのか。1 週間前に終われば長崎の 7 万人は死んでないのよ。その 3 日早く終わってたら広島だって犠牲が出なかった。

15 日に戦争終わったね。今日は偉い人のお話がラジオからあるからラジオを聴くようにって言われました。ラジオなんてないので、みんな町内会長さんのところに行って聞きました。偉い人だから体操ずわりとか横座りはダメです、足はきちんと正座しなさいと言われた。子どもはみんな正座しました。庭には気をつけして大人がいっぱい立ってました。お昼の 12 時ラジオから放送が始まりました。私たちには難しくてわからんねって言って、ガヤガヤとおしゃべりを始めました。そしたら黙って聞きなさいって怒られた。みんなびっくりして、またきちんと座って聞いたのよ。そしたら一緒に聞いてた大人が泣き出したのよ。大人の人が戦争に負けたって泣き出したの。私たちはびっくりしました。欲しがりません勝つまではと食べるものも食べないで我慢してたわけでしょ。それなのに負けた。それが 8 月 15 日、戦争が終わった日のことです。

沢山ある小学校の中で、城山小学校は爆心地から一番近くて 500 m しか離れてないんです。その城山小学校は 1400 人近くいた学校でした。8 月 9 日に原子爆弾が爆発して先生方 27 人の命が奪われた。3 人の先生は助かり、大怪我でした。9 月になって怪我が治った先生 3 人が学校が壊れてるから、皆さん八幡神社に動ける人は来てくださいと言いました。子どもたちが来ましたが、洋服もボロボロで髪もボロボロです。靴なんか履いてないです。お母さんが死んだ。兄ちゃんが死んだ。妹は生きてるかどうかもわからない。1400 人いた学校ですが、生き残ってたのはたった 48 名です。

そして今、城山小学校は大きな学校になってます。資料館もできてます。資料館に入ると亡くなった先生の写真が貼ってあり、亡くなった子どもの名前が書いてあります。私のいとこの名前もあります。私は名前の数を数えてみました。1400 人なんていませんでした。 7 00 人ぐらいです。「1400 人近くいたのに、なんで 700 人ぐらいしか書いてないと思う？」と子どもたちに聞きます。それはね、僕は 6 年 1 組のだれだれですと言いたくても、瞬間に死んだ。爆発と同時に僕は死んでる。私は 5 年生。ドッジボールが上手でと言いたくても私も死んでる。私の子どもは 3 年生の女の子ですと言ってるお父さんお母さん、近所のおじちゃんおばちゃんも死んでます。町が消えてしまったんだ、町が消えて名前が残されてない。それが本当に悲しかった。

私は子どもたちに「お父さんお母さんの最初のプレゼントは何？」って聞きます。ゲームでもケーキでもないでしょ、最初のプレゼントは名前よ。その名前が残っていない。名前っていうのは生きてたという証よ。だから沖縄でも一生懸命名前を残しました、生きてたという証の名前すら残されずに子どもたちは亡くなりました。

城山小学校に歌があります。「またたく間に友は声もなく空の彼方へ」一瞬です本当に。今、城山小学校の話をしましたけど山里小学校でも 1300 人近くの子どもが命をなくしています。それから鳥居の片方が飛んでしまった山王神社のすぐそばの銭座小学校は 700 人の子

どもたちです。子どもたちがこんなに命を奪われてしまう。そしてその命の奪われ方もバーって飛ばされて命を奪われた。その後は、私たちが亡くなった人を見たくないから見ないようにと思って目逸らします。人間は腐っていきます。もう２日３日経てば人間、腐ります。その匂いからは逃げられないんです。匂いだけはずっとついて回りました。みんな亡くなってたくさん腐ってるの、みんななならどうする？と子どもたちに聞きます。どうするって焼くしかなかった。今でも人間亡くなったら焼くでしょ。でも今は棺に入れて焼くね。でも、あの時はそんなことはできない。

「どこで焼いたか考えてごらん」と子どもに聞きます。広いとこって考えると、学校のグランドは広いでしょ。私が通ってた小学校のグランドでも焼きました。焼いた後の骨はそのままです。誰も拾わない。臭いから焼いた。後の骨はどうしたかというと、無縁死没者追悼記念堂にもっていった。長崎には無縁仏様を祀ったお堂がたくさんあります。これは長崎市原子爆弾無縁死没者追悼記念堂。爆心地に一番近い骨が入ってるんですよ。この記念堂には子どもの骨が多いそうです。名前も残されなかった。自分の家のお墓にも入れてない子どもたちがどんなにたくさんいたかということ。私は、「それを考えてください」と子どもたちに言います。

そして最後に私はこの“焼き場に立つ少年”という写真を見てもらいます。これを写したのは米国のオダネルという素晴らしい方です。この写真は９月に写されました。この少年が立ってるのは亡くなった人を焼いてる場所の前です。次から次に亡くなっていったから焼くしかなかった。次に焼くのは背中の赤ちゃんです。赤ちゃんの順番が来たのにお兄ちゃんはこの背中の紐をほどかなかったそうです。ただ立っていた。とうとう焼いてる係のおじさんが行ってこの背中の赤ちゃんを紐からほどいて赤ちゃんを火の上にすっと乗せたそうです。赤ちゃんが炎に包まれた時、お兄ちゃんは泣くのを我慢して歯を食いしばって下唇から血が滲んで、それを見た時オダネルさんは何で戦争なんかしたのか。戦争したばっかりにこんな悲しい思いをする子どもが出てしまった。この写真は何年もしてから出たんです。この少年の写真が出た時にさあどこの誰だろうって随分探しましたが、多分亡くなったであろうと言われています。お兄ちゃんの手とか足に紫の斑点が出てます。放射能で細胞がやられてるんです。だから多分亡くなったであろうと言われてます。私はこの写真が出た時に、池田さんという方も僕も焼きに行ったと言ってらしたから、あの写真は池田さんじゃないかと尋ねたんですが、僕は「妹を焼きに行ったけども、抱っこして行った。僕はおんぶしてない。だから僕じゃない」と言われました。普通なら親が行くはずです。お父さん、お母さんも犠牲になっていて残された兄弟で、抱っこしたりおんぶしたりして焼きに行ったんです。どんなことがあってもやっぱり平和を大切にせんとね、子どもたちにこの写真を見せた後に必ずこう言います。

お米を見せながら「これは何？」と子どもに聞きます。子どもがお米って言います。そうこれお米よ。みんな修学旅行に来てホテル泊まるんでしょ。「お米持ってきた？」って聞きます。子どもたちは、いいえと首を振ります。「お米も持ってこないでご飯食べさせてもらうなんて、そんなのないよ」って言います。私は小学校１年生で戦争終わったよ。６年生になった時に修学旅行はあったのよ。その時、担任の先生は、「修学旅行に参加したい人はお米を持ってきてください。お米が持ってこれない人は修学旅行に参加できません」と言われたのよ。８月 15 日に戦争終わったから即平和じゃないんです。６年経ってもお米持ってこないと修学旅行にいけません。そして子ども達が平和を守る一番の近道は、まずお隣、周りのお友達を大切にして、そして平和を守ってくださいという風にお話をします。

それで最後に「平和のバトンをつないでください」という画面を出します。これは平和のバトンタッチです。平和のバトンを受けてくださいということで子どもたちへのお話を終わります。今日はありがとうございました。

[講演録] 日本平和学会 2023 年度秋季研究集会　平和教育分科会

地球市民学の学び：『ピース・アルマナック 2023』を用いた学習プログラム

松井ケテイ
清泉女子大学教授

年鑑『ピース・アルマナック』を平和教育に活かす貴重な取り組みがある。「日本の平和博物館」のリストを基に、大学の授業と第五福竜丸展示館でのフィールドワークをセットにした学習プログラムに関する平和学会平和教育分科会での講演録を紹介する。本稿は、講演録を編集部が抄録として作成し、著者の校正を得たものである。

私の属している地球市民学科は、行動できる市民（アクティブ･シチズン）を育てることをめざした学科です。いろんな諸問題を自分の問題として捉え､それを分析し、どういう治療が必要なのかを検討し、その治療に自分が何ができるかを考えるというようなことです。そこでの私の授業に「専門事例：地球市民と平和」という 105 分の授業を 2 コマ続ける講義があります。

そうした折、今年の春の平和学会で、ピースデポの「ピース・アルマナック 2023」を購入しました。これを見て、私の「地球市民と平和」という授業で使わせていただくのにとても素晴らしいリソースだと思いました。そこで、これから平和教育の授業をなさる皆さんにも共有させていただこうと思い、平和教育の分科会で発表することとしました。現在「アルマナック 2024」が準備中と聞いておりますので、是非とも買っていただけたらと思います。なぜ私がここまで言うかというと、問題を知るためにとても素晴らしい、アップデートした最新情報の内容が盛り込まれているからです。

地球市民学とは

地球市民って誰っていうことですけども、地球市民とは平和の文化を実践する人です。平和の文化とは、ユネスコ憲章の「平和の思想」の今日的な表現です。「人間が求める身近な平和､安心･安全」を､考え方の慣習､「文化」にしようということです。これはユネスコのウェブサイトからみることができます。平和の文化を築く人として地球市民を位置付けるという考え方なんですね。平和の文化を実践するということは、様々な問題を建設的に解決するスキルを得ること､国際水準である人権､ジェンダー、そして人種に対する平等を理解し実現できるようにすることです。ですからアクションまで重要だということになり、チェンジメイカーとしてどう行動するのかっていうことなんですね。その方法はもちろん非暴力的な方法です。そういう意味では個人とかグループ、国家間の対話の重要性とか、協調的な交渉法とかも身につけることによって、平和の文化を築くことができるのではないか。

地球市民学科の研究にも､いろんなテーマがあります。いろんなテーマで問題を分析し、提案を出して、きちんと自分がどのようにアクションをとって関わるのかまでがプロセスです。そして文化の多様性を認め、地球の統合を図ることをめざすので、しまいにはこの美しい地球をどのように保持していくのかということが大事な部分になります。このように地球市民学は世界の諸問題をひ

きおこす制度を変える力を持つ市民を育てる、すなわち行動できる市民を育てる学問であると理解してください。そのためには、価値づける過程・意味づける過程として、知性に触れ、心に触れることが必要です。知性に触れるというのは、いろんな問題を色々と調べて、実際はどういうことなのかを明らかにする。例えばニュースを見るっていうのも大事なことです。ニュースも CNN とか日本のニュースだけではなく、アルジャジーラなどの視点からもニュースを聞く。そういうスキル、そしてどういうものを調べていくのかっていうことなんです。それだけだと人の問題です。そこにいる人たちのテスティモーニーとかストーリーを聞くとか、ビデオを見るとか、実際にフィールドワークで現地を訪れてインタビューするとか、そうすると心に触れることにつながります。それは共感を生み、ひいては自分の問題としても見ることにつながります。

自分の問題になると何かしなくちゃいけないという気持ちにかられます。アクションを取ろうということになる。私にどういうアクションが取れるんだろう。ではワークショップをするかという具合に進んでいく。例えばパレスティナとイスラエルの問題を想定したとき、まず私たちはイスラムの文化をちゃんと理解しているだろうか。そうではないかもしれない。そこで、イスラムの文化を理解するようなワークショップから始めようとか。そういう感じで学生がプロセスを進めていくわけなんですね。同じ地球に住む私たちが例え遠くのウクライナとかロシアで起きてることとか、パレスティナで起きてることに関して、私たちは傍観者になるんですか、それとも何か関わっていくんでしょうか。市民のレベルで何かできるのではないか、という感じで想像を働かせてもらうわけです。

この授業ではその問題をガルトゥング先生の DPT 分析（診断・予測・治療）という手法を使わせていただいています。ガルトゥング先生はいろんな問題を病気として捉えるとしたら、それをきちんと理解しなくちゃいけないので診断し、そして予測をする。今、何もしなかったらどうなるんだろう、今ここで何かをしたらどう変わるだろうかと予測する。そしてどういう治療をすればいいかを考える。なぜかと言うとほとんどの問題は氷山の一角しか見えていない。見えない部分の方が大きいわけです。この見えない部分をどう理解するのかという課題に対して、DPT 分析はそれをサポートする手法になります。例えば犯罪。ニュースで誰かが殺人を起こしたと報じられた。大体みんな悪いやつっていう風に簡単に処理してしまう。だけどもその人が何んでそういうことをしなくちゃいけなかったんだろう。そこまで知らないと本当のコミュニティの平和は得ることはできない。それは被害者だけの問題ではなくて、加害者もニーズがあったのではないか。そういうニーズにきちんと対応しない限りは真の解決にはならないし、再犯防止にもならない。その手法のリストもここにあります。いろんな国際法的なものから日本国憲法まであります。これらはツールとして使えるわけなんですね。

「ピース・アルマナック 2023」を用いたワークショップの実践

地球市民学の学びのプロセスは、知性に触れ、問題の背景や歴史から診断を出していきます。そして心に触れるフィルドワークでストーリーを聞く、映像を見る、行動を起こす問題の治療方法を提案して関わっていくということになります。そこをお手伝いしてくれるのがピース・アルマナックだととらえていただけたらと思います。「ピース・アルマナック 2023」は、まさに知に触れるという面において、教科書にもなります。

心に触れるということであれば、ピース・アルマナックには、第 8 章に「日本の平和博物館」や「日本の平和活動 NGO・草の根グループ」のリストが掲載されています。これらを訪問することも 1 つの方法です。「核兵器と戦争のない地球」をテーマに、核が存在する世界や今まで冷戦時代に行われた 2053 回の核爆発などの実態をアルマナック 2023 が提供する情報をもとに分析することを試みました。「地球市民と平和」の中で核兵器禁止条約や、核兵器のワークショップっていう授業も行うわけです。そのために実際に行けるところはあるのかと見ていくと、例えば第五福竜丸展示館がありました。105 分の授業がお昼休みを挟んだ 2 限と 3 限に行われることから、その時間を使い、第五福竜丸展示館にフィールドワークに行く。広瀬さんが学生を授業として連れて行く予定です。それを「地球市民と平和」の授業の一部として行う。最初にワークショップをしてもらいます。私の「包括的平和教育」という授業が大学院にあります。今、広瀬さんは大学院 2 年なんですけども、そこでワークショップを考えることになりました。それを私の授業の学生に一度やってもらい、そのワークショップの後にみんなで新木場の第五福竜丸展示館に行き、いろんなものを実際に見た。その後、またまとめのワークショップをやり、そしてそれが 3 限の授業になるわけです。 4 限の授業に間に合うように清泉女子大学に帰っていく。大変な 1 日になるわけなんですけども、そういうことができるというのも、ピース・アルマナックから情報を得ることができたからだと思います。知識に触れ、心に触れ、行動を起こす、価値ある・意味ある学習過程が成立したわけです。

情報の宝の山としての「ピース・アルマナック」

学生に「皆さんは戦争は今後も起こり続けると思いますか」と問いかけます。人類は何千年にも渡って戦争してきました。現在も続いている。従って戦争は今後も起こり続けるのでしょうか？　これだけのリストの戦争が今あるという風にここで出しているんですけど、実はアルマナックにもそういうリストがあります。そして何が実際にウクライナで起きてるのであろうとか、核兵器の現状等に関する核兵器のデータもここにはあります（第 3 章セクション 14）。各国がどのぐらいの核兵器を持っているのかが出ているわけなんですね。第 1 章「平和・軍縮全般」として歴史的出来事から現在までというセクションもあります。ここには軍縮及び安全保障に関する国連総会決議と各国の投票行動が一覧表になっており、治療方法セラピーの 1 つとして国連の場で各国はどう動いているかがわかります。「主要２０か国の軍事費」が表で示され、主要国の経年推移も図になっています。第 6 章「通常兵器」とか 7 章「日米拡大安保体制及び自衛隊」といった章もあります。

人間は生まれつき暴力的な動物なんですかっていう問いかけもします。私たちはこの信念に対して挑戦しなければいけないと思います。これを受け入れたら戦争を黙認することになります。多くの人は暴力は人間の先天的なものだから戦争は避けられないと思っているし、物事を早く解決するためには戦争は止むを得ないと思うのが国のリーダーたちですよね。

でも本当に戦争は私たちに内在しているんでしょうか。これについては「暴力に関するセビリア声明」（1989 年）があります。これはアルマナックには出てないですね。今後、ぜひ入れてください。専門家が集まり、生まれつき暴力的ではなく暴力の育つ環境の中で学んでいくんだということを証明したわけです。声明の主なポイントは、まず戦争は人間が発明したものである。そして人間が発明したものだから、人間はそれを阻止する選択肢もあるということです。デスモンド・ツツも言いました。人間はアパルトヘイトを作った。だからアパルトヘイトをなくすことができた。戦争も同じことだって彼は言ってます。生まれつきのものなどではなく、人間がどのような環境でどう育てられてきたかに依存するものだ。私たちはそういう環境をどうなくし、より平和的な環境を提供していけるんだろうかということがセビリア声明に出ているわけです。

またピース・アルマナックに出てくるいろんな数字をゲームみたいにして問いかけるのもためになります。戦争 9.11 や、パレスティナとイスラエルを題材にする授業の後に核兵器の歴史とか核兵器に関係する内容の授業をすることもシラバスにあります。その時に 15 万って何でしょうと聞く。これは広島原爆の犠牲者。じゃあ 7 万 5000 は？。これは長崎の犠牲者とか。

さらに 2053 ？て何だろう。みんな年月日だと思うんですけども、これは 1945 年から 1998 年の間にやった核爆発の回数です。これをやるのに橋本功さんが作った 20 世紀に行われた 2053 回の核爆発を 14 分間の映像にまとめて見せたものがあります。2053 だけではただの数字ですが、映像で見ることによって、おびただしい数の核爆発が行われたことを実感できます。6 万 8000 は？これは 1985 年の核兵器数で、人類史上最大の数になった時です。1 万 1044 とか 4000 とかこれはアイキャンの方で出した数字です。4000 というのは警報即発射態勢に置かれ、すぐ使える核弾頭の数です。4000 もすぐ使えるってことは、これ一遍に使ったらもう地球はなくなります。

知に触れる核兵器の現実もアルマナックの情報にあります。例えば第 1 章のセクション 14 は国際司法裁判所の 1996 年の勧告的意見、第 2 章には核兵器をなくしていくために重要な条約として核不拡散条約（NPT）や核兵器禁止条約のこれまでの国際合意文書が掲載されています。さらに「核軍縮・不拡散」については、「主要国（3 章）」、「朝鮮半島（4 章）」、「イラン及び中東（5 章）」に関する詳しい資料もあります。ということで情報満載です。

インターネットでいちいち検索するのは目と体にも良くないので、できたら紙媒体で情報を得るというのもとても重要な点だと思います。アルマナックから得る「心に触れる情報」は先ほども言いましたように日本の平和博物館とか核や平和に関係する NGO リストがあります。日本は世界でも 1 番、博物館が多いって言われているんですね。私たちの周りにはそういう素晴らしいフィールドワークに行ける場所がいっぱいあるんです。そうすると自分の問題になっていきますということなんです。

第五福竜丸展示館におけるフィールドワーク

[報告] 核兵器禁止条約第 2 回締約国会議の成果

浅野英男（核兵器廃絶日本 NGO 連絡会事務局）

2023 年 11 月 27 日から 12 月 1 日にかけて核兵器禁止条約（以下、TPNW）第 2 回締約国会議がニューヨーク国連本部で開催された。今回の会議では、主に、第 1 回締約国会議で採択された「ウィーン行動計画」の実施状況や今後の取り組みなどが議論された。また、「核兵器の人道上の影響」に関するテーマ別討論や世界各地からの核被害者を含めた市民社会による意見表明も行われた。前回と同様に、日本の市民社会からも多くの団体および個人が参加し、サイド・イベントの開催や会議での発言などを行った。（核兵器廃絶日本 NGO 連絡会（以下、NGO 連絡会）によるオンライン中継やブログ記事参照）

最終日には、宣言「核兵器の禁止を支持し、核兵器の破滅的な結末を回避する我らのコミットメント」と 5 項目の決定が採択された。宣言は、核兵器のいかなる使用および使用の威嚇を明確に批判すると同時に、ますます深まる核兵器への依存によって核リスクが「とりわけ悪化している」ことを強調した。また、核兵器の壊滅的な人道上の結末に対する深い懸念を再確認し、最後には「核リスクの高まりと核抑止の危険な永続化を傍観者として見過ごすことはしない … 現在および将来世代のため、核兵器のない世界を達成するために不断に取り組んでいく」とした。その他にも、核兵器の影響に関する科学的根拠に基づいた政策決定および科学諮問グループの意義や、TPNW と核不拡散条約（NPT）などその他の核軍縮・不拡散レジームとの補完性、新興技術がもたらしうる影響への対処の必要性などにも言及した。（宣言の日本語訳は NGO 連絡会ウェブサイトの「2023TPNW レポート：最終文書 暫定日本語訳を公開」に掲載）

核兵器廃絶日本 NGO 連絡会として発言する筆者。
2023 年 11 月 30 日（現地時間）、ニューヨーク国連本部。

決定では、第 3 回締約国会議までの会期間構造やテーマ別討論に関する決定に加え、以下の項目について合意がなされた。まず、被害者援助および環境修復に関する自発的報告において、キリバスとカザフスタンが提出した報告書に含まれるガイドラインとフォーマットを暫定的に使用することが決まった。また、被害者援助および環境修復のための国際信託基金の設置について、その実現可能性とガイドラインについて会期間の非公式作業部会で集中的に議論し、第 3 回締約国会議に勧告を提出することが合意された。さらに「核兵器禁止条約に基づく諸国の安全保障上の懸念に関する協議プロセス」の立ち上げが決定され、そこでの議論の内容と勧告を第 3 回締約国会議に提出することとなった。この協議プロセスでは、核兵器に安全保障を依存する国々が核抑止を正当化するためにこれまで繰り返してきた「安全保障上の懸念」という言説に対置する形で、TPNW 締約国側も自らの安全保障上の懸念をより明確に表現し、核抑止に基づく安全保障パラダイムへの異議申し立てを強化していくことが期待される。（最終成果の詳細は NGO 連絡会ウェブサイト掲載の「2023TPNW レポート 5 ―核兵器禁止条約第 2 回締約国会議の成果について―」参照。）

今回の締約国会議に際して NGO 連絡会は、TPNW の普遍性（第 12 条）についてワーキング・ペーパーを提出し、その内容をもとに会議で発言した。そこでは、国会議員討論会や外務省との意見交換会など、日本における TPNW の普遍化に向けた市民の取り組みを紹介し、それが着実な成果を上げてきたことを紹介した。それらの経験を踏まえ、TPNW 締約国に対しては、核抑止政策の政治的、法的、社会的な問題を包括的に検討することや、TPNW の普遍化に向けて核依存国への効果的なアプローチの方法について検討するとともにその枠組みに核依存国の市民社会の代表を加えることなどを提言した。（普遍性の議論と NGO 連絡会の提言はウェブサイト掲載の「2023TPNW レポート 2 ―普遍性をめぐる議論について―」参照。）

NGO 連絡会は、日本の TPNW 参加を目標に、2024 年 4 月に「核兵器をなくす日本キャンペーン」を立ち上げ、さらなる世論喚起と議員および政府への働きかけの強化を目指す。キャンペーンを通じて、日本社会が、核抑止に依存する安全保障のあり方を超え、核依存国による TPNW 署名・批准の先駆けとなっていきたい。

トピックス

国際司法裁判所、イスラエルにジェノサイドを防ぐための措置を命じる

12 月 29 日、南アフリカはイスラエル軍がガザ地区に対して行っている攻撃が集団殺害にあたり、ジェノサイド条約に違反しているとして、オランダ・ハーグにある国際司法裁判所（ICJ）に提訴した。また、南アフリカは、ICJ が判決を下すまでの暫定的措置として軍事作戦の即時停止等をイスラエルに命じるよう請求した。

ICJ はこの提訴に対して迅速に対応し、1 月 11 日・12 日には、この暫定的措置をめぐる公開審理が行われ、1 日目に南アフリカの代理人、2 日目にイスラエルの代理人がそれぞれの主張を展開した。そして 26 日に出された暫定的措置では、期待されていた停戦命令は出されなかったものの、イスラエルに対し、判決までの間、ジェノサイド等を防ぐため、あらゆる手段を尽くすことや、ガザ住民に確実に人道支援が届くようにすること、1 カ月以内に暫定的措置を受けて行った対応について報告することなどが命じられた。

この暫定的措置を受け、南アフリカやパレスチナ自治政府、ハマース等の関係当事者は、基本的に歓迎する姿勢を取っている。他方、イスラエルは、「ユダヤ人国家から自衛権を剥奪しようとする試みは拒絶された」などとの声明を出した。

なお ICJ の裁判には「第三国」の参加が認められており、1 月 12 日にはドイツが、イスラエルを支持する立場から裁判に参加する意向を明らかにした。このドイツの姿勢に対してはナミビア政府が、植民地時代にナミビアで行ったジェノサイドについて清算ができていないドイツが再びジェノサイドの事実を否定しているとして、強い反発を示した。

今後、ICJ は、イスラエルのガザ攻撃がジェノサイドを構成するかどうかについての審理を行うことになるが、判決までに数年はかかると見られている。とりわけ、ジェノサイド罪の要件である「集団虐殺の意図」が認定されるかどうかが大きな焦点となる。

暫定的措置を含め、ICJ の決定は法的拘束力を持つとされているものの、実際にイスラエルに対して暫定的措置や判決を強制する執行機関があるわけではない。とはいえ、ICJ は国連機関であり、当然のことながら国連加盟国にはその判決を尊重する義務がある。ガザにおけるジェノサイドが認定されれば、イスラエルの国際的信用が大きく揺らぐことは間違いない。

現段階での市民社会の役割としては、暫定的措置をイスラエルが実行しているかどうかについて監視していくことが重要となる。また、ジェノサイド禁止条約への日本政府の加盟を求めていくことも重要な課題である。

2024 年の「終末時計」、人類滅亡まで 2 年連続で残り 90 秒

2024 年 1 月 23 日、米科学誌「ブレチン・オブ・ジ・アトミック・サイエンティスツ」（BAS）は、人類が滅亡する時間を午前 0 時に見立てた「終末時計」の残り時間が「90 秒」と発表した。1947 年の創設以来、最短となった 2023 年と変化がなく、2 年連続で過去最短となった。冷戦終結後の 1991 年は「17 分」で最も長くなったが、2020 ～ 2022 年は「100 秒」にまで短くなっていた。

最大の要素はとどまることのない核の脅威である。2022 年 2 月に始まったロシアのウクライナ侵攻は、終結が見えず、この戦争でロシアが核兵器を使用する深刻な可能性は引き続き存在している。さらに 2023 年後半に始まった核保有国であるイスラエルとハマスのガザでの戦争は、より広範な中東紛争にエスカレートする可能性があり、地域的にも世界的にも予測不可能な脅威である。さらに米露中という三大核大国の核開発計画は、世界の軍備管理体制が崩壊する中、三国間での核軍拡競争を引き起こす恐れがある。他にも北朝鮮は核兵器と長距離弾道ミサイル開発を続け、印パの核戦力の拡大は止まることなく続いている。

従来、終末時計は核戦争の脅威を中心に評価されていたが、2007 年以降は、気候変動や人工知能（AI）などの人為的なリスクも考慮に入れられるようになっており、その側面は近年、より強まっている。2023 年は観測史上最も暑い年に見舞われ、温室効果ガス排出量も増加し続けており、世界は未知の領域に入ったと気候変動による脅威の高まりを強調している。また AI や生物学

的研究といった破壊的なテクノロジーは安全策を上回るペースで進歩しているとし、生成 AI による偽情報の広がりも滅亡のリスクを高める新たな脅威と位置付けた。

これらの共通の脅威に対しては共通の行動が必要であるとした。そこで、最初のステップとして世界をリードする三大国、米露中はこれらの世界的脅威による大惨事の瀬戸際から引き戻すために真剣な対話を開始すべきであるとしている。

北朝鮮、韓国がそれぞれ軍事偵察衛星を打ち上げ―問われる国際社会の二重基準―

2023 年 11 月 21 日、朝鮮民主主義人民共和国（DPRK、北朝鮮）は軍事偵察衛星「万里鏡（マンリギョン）1」号を西海（ソヘ）衛星発射場から打ち上げた。過去 2 回（2023 年 5 月 31 日、同年 8 月 24 日）は失敗だったが、3 回目にして成功した。

これに対して国際社会は厳しい反応を示した。打ち上げの翌日、大韓民国（韓国）は打ち上げへの対抗措置として、南北軍事分野合意（2018 年）のうち、飛行禁止区域の設定に関する項目の効力停止を決定した。これに対して、北朝鮮はその翌日、韓国の決定を非難し、「合意によって中止していた全ての軍事的措置を即時復活させる」と宣言した。

また、G 7 外相は、11 月 22 日、北朝鮮による「弾道ミサイル技術を使用したいかなる発射も、たとえ軍事偵察衛星と称するものであったとしても、関連する国連安保理決議の明白かつあからさまな違反である」と同国を非難する共同声明を発表した。さらに国連安保理理事国 9 か国及び韓国の計 10 か国は、同日、打ち上げは「国際と地域の平和と安全を脅かし、世界の核不拡散体制を弱体化させる」とする共同声明を出した。これに対し、北朝鮮は 5 日後、国連加盟国なら享受できる宇宙開発の権利を北朝鮮だけが享受できないという米国とその追随勢力の主張は「差別」であり「二重基準」だと反論した。

11 月 27 日、国連安保理は北朝鮮の軍事偵察衛星打ち上げをめぐって緊急会合を開いた。しかし、意見が分かれ一致した対応は取れなかった。2 日後、金与正（キム・ヨジョン）朝鮮労働党宣伝扇動部副部長は「国連安保理では、米国とその追随勢力によって主権国家の自主権が蹂躙され、二重基準が適用されている」と非難した。

一方、韓国は 12 月 1 日（米国時間）、米バンデンバーグ宇宙軍基地から初の軍事偵察衛星打ち上げに成功した。打ち上げには、米宇宙企業スペースＸ社のファルコン９ロケットが使用された。打ち上げについて、北朝鮮は 12 月 4 日、「米国は、われわれの衛星打ち上げは地域の平和と安定に対する『脅威』となるが、韓国の衛星打ち上げは『国際法順守』の面で性格が異なる」として正当化し、詭弁を弄していると米国を非難した。

米韓の第 2 回「核協議グループ」会合と北朝鮮の ICBM 発射

2023 年 12 月 15 日、米韓両国は米首都ワシントンで第２回「核協議グループ」会合を開いた。「核協議グループ」は米国の核戦力の運用などについて話し合う米韓の会合である。今回の会合では、2024 年半ばまでに「核戦略指針」を完成させることや、2024 年の合同軍事演習で北朝鮮への核報復攻撃を想定した訓練を初めて実施することで両国が一致した。会合後、米韓は共同声明を出し、「北朝鮮による米国あるいは同盟国に対するいかなる核攻撃も容認できず、それは金正恩政権の終焉に帰結する」という従来からの立場を繰り返した。

これに対し北朝鮮は 2 日後、「いかなる核使用の企図も先制的で壊滅的な対応に直面する」と警告した。さらにその翌日、日本海に向けて固体燃料式の大陸間弾道ミサイル（ICBM）「火星 18 号」の発射訓練を実施した。朝鮮中央通信によると、発射訓練の目的は以下の通りである。北朝鮮から見れば、米国が核兵器搭載可能な戦略爆撃機や戦略原潜、原子力空母を含む各種の核戦争装備を朝鮮半島周辺に次々と送り込むことは看過できない。こうした「意図的かつ計画的な敵の対決的軍事威嚇行為」に対して強力な警告を発するために発射訓練を実施したという。

ICBM 発射を受けて、日米韓は 12 月 18 日、北朝鮮のミサイル発射に関する情報の即時共有を開始するとともに、3 か国による合同訓練の複数年計画を策定した。また、国連安保理は同日この問題をめぐって緊急会合を開いた。会合に先立ち、日米韓など 9 か国は発射を非難する共同声明を発表した。一方で、北朝鮮の金星（キム・ソン）国連大使は、ICBM 発射は軍事的威嚇を続ける米韓への対抗措置だと説明。北朝鮮の「自衛権行使」だけを問題にするのは二重基準だと非難した。緊急会合では、今回も中露が北朝鮮を擁護する姿勢を示し、安保理として一致した対応を示すことはできなかった。

沖縄防衛局、辺野古新基地埋立てで大浦湾側の工事を開始

2024 年 1 月 10 日、辺野古新基地建設を巡り、沖縄防衛局は軟弱地盤がある大浦湾側の埋立てに着手した。重機をのせた台船が、海上の資材置き場設置予定地で、石材の海への投下を開始した。2013 年 12 月に沖縄県が埋め立て申請を承認した際に付けた「留意事項」は、防衛局に対して工事の実施設計について県と事前に協議するよう定めている。県は留意事項に基づく事前協議に向けて調整を進め、協議が終わるまでは着工しないよう求める方針だが、協議をしていない段階での埋め立て工事の開始となった。

これを導いたのは、2023 年 12 月 20 日に福岡高裁那覇支部が下した代執行訴訟の判決である。判決は、国の請求を認め、沖縄県に対し防衛省の設計変更申請を承認するよう命じた。しかし、10 月 30 日の第 1 回口頭弁論は原告被告双方が意見陳述をしただけで結審となっており、実質的な審理は一切行われていない。判決は、末尾に付言として、「国としても、沖縄県民の心情に寄り添った政策実現が求められている」とか、「国と沖縄県とが相互理解に向けて対話を重ねることを通じて抜本的解決の図られることが強く望まれている」としている。そうであるなら、せめて裁判の場で中身のある審理をすべきであろう。

玉城知事は、期限の 12 月 25 日、新基地建設に反対する多くの県民の負託を受けており承認しないことを表明した。それを受けて、斉藤鉄夫国交相は、12 月 28 日、玉城デニー知事に代わって沖縄防衛局の埋め立て設計変更を承認する代執行を行った。

1 月 19 日、沖縄県は、代執行訴訟に関し上告受理申立書を最高裁に提出し、さらに争う構えを示した。福岡高裁の判決が基礎にした 23 年 9 月 4 日の最高裁判決は、公有水面埋立法上の関係規定の法令違反を判断しておらず、福岡高裁は、公水法上の関係規定への違反を改めて審理することもせずに県の法令違反を認定したなどと批判している。

工事は始まった中ではあるが、沖縄県はあくまでも抵抗を続けている。こうした状況下では、南西諸島での M8 クラスの巨大地震への備えや新生物多様性国家戦略との整合性など新たな事情の要素を組み込んで、沖縄県が埋め立て承認の再度の撤回へ向けて踏み込むのかどうかが注目される。

米軍、屋久島沖での CV22 オスプレイ墜落事故でオスプレイ全機を飛行停止に

2023 年 11 月 29 日 15 時前、米空軍横田基地配備の CV-22 オスプレイが、鹿児島県屋久島の南東約 1km 沖合に墜落し、乗組員 8 人全員が死亡した。晴天で風速 1.9 m という気象条件の中、岩国基地から嘉手納基地に向けて 3 機編隊で飛行していた。うち 1 機に何らかの異常事態が発生し、屋久島空港への緊急着陸を要請したが、同空港への着陸を試みている途上で海上に墜落したとみられる。漁民や釣り人などの目撃情報から、「屋久島空港の方向に向かって飛んでいたオスプレイが突然、ひっくり返り、その直後に左翼側のプロペラのあたりから火が出てその部分が爆発し、そのまま海に落ちていった」とされる。米空軍、自衛隊は、直後にオスプレイの飛行を停止したが、海兵隊や海軍機は、事故後も通常どうりの飛行を続けており、沖縄では多くの目撃情報がある。

捜索や調査があわただしく行われていた 12 月 6 日、米空軍特殊作戦司令部（AFSOC）は、声明で「初期段階の調査から機体そのものの問題が事故につながった可能性がある」と発表した。ポテンシャル・マテリアル・フェイリアーという言葉が使われ、報道では「機材の故障」などと表現された。これを受け同日、米軍として、世界に配備している全オスプレイの飛行を停止したと発表した。過去にオスプレイでは MV、CV 合わせてクラス A の事故が約 20 回起きているが、事故直後に全機の飛行を停止したのは初めてのことである。

これまでは「原因はパイロットの人為的ミスで、機体に問題はなかった」というのが常套句であったが、2022 年夏頃から「機体そのものに問題があった」という事例が起きていた。2022 年 6 月のカリフォルニアでの MV22 海兵隊機の事故は、クラッチの不具合が問題で「機体そのものに問題があった」ことを認めている。屋久島沖の事故の原因はまだ調査中で、現段階ではクラッチの不具合問題と関係があるのか否かは不明であるが、全機に共通の重大な欠陥が原因であることは確かである。実戦配備から 17 年以上たつ今になって、機体に重大な欠陥が明らかになったのである。

ちなみに現在、日本には米海兵隊 MV22 が 24 機（普天間基地）、米空軍 CV22 が 6 機（横田基地）、そして陸自 V22 が 14 機（木更津基地）、計 44 機が配備されている。

連載エッセー

全体を生きる

梅林宏道（題字は筆者）

第47回　災害装備のこと、北朝鮮のこと

年が明けて以来、２つのことが頭を離れない。前回の続きを中断して、この２つのことを書いておきたい。

１つは、能登半島地震の惨状を見ながら、日本の軍事費倍増計画への怒りである。震災後に日本政府は、米国産トマホーク巡航ミサイル 400 発を約 1700 億円で購入する契約を結んだ。この額は閣議決定された能登半島地震への支援支出総額よりも何と 100 億円も高い。人々の命と暮らしを守るために、明らかに準備すべき投資が目の前に見えているのに、何と的外れな軍備投資を平然とするのか。市民もメディアも、声を大きくしてこのような愚行を止めさせるチャンスではないか。

戦争は防ぐことができる。しかし、大地震も津波も豪雨も台風も防ぐことができない。しかも、地球温暖化がもたらす異常気象が大災害をもたらす可能性について多くの人が気づいている。

日本は防災のみならず、災害対処に必要な装備について熟慮し、開発し、場所を選んで全国的に配備するべきである。既存の装備を考えるだけではなくて、日本の災害経験に基づいて、創意をもってシステム的に必要な装備を設計、開発、製造するべきであろう。思いつくだけでも、次のような装備の開発が可能である。

超重量運搬ヘリコプター：寸断された陸上輸送の早期回復のため、大型土木重機を輸送するヘリコプターが必要である。米軍の持つスーパー・スタリオン・ヘリコプター CH53 は 16 トンの運搬が可能である。これでも中型重機の輸送はできるが大型シャベルカ―や大型ブルドーザーの運搬はできない。戦場を想定しない災害ヘリの開発が必要である。

大型避難船：沖合に停泊し、千世帯、1 ～ 4 千人を 1 ～ 2 週間収容し、プライバシーを守る形で生活を可能にする船舶が複数隻必要である。多数のヘリが離着艦出来る甲板を作る必要がある。米軍の空母は単身者 5000 人を数か月にわたって遠洋で養う都市機能をもっている。避難船は遠洋航海する必要はないし、豪華客船である必要もない。

大型病院船：患者 500 ～ 1000 名規模を収容できる病院船が必要である。被災地域の病院に入院中の患者や災害による患者を緊急収容する船である。米軍の病院船マーシー号やコンフォート号は、タンカーを改造した船であり、900 ベッドを備える。

大型輸送ホバークラフト：エアクッションで浮上、港湾がなくても上陸が可能な輸送クラフトは災害時に独特の役割を果たす。日本の具体的な地形を想定した固有の機能を持たせる設計が可能である。

その他、工業用水を製造・供給する海上移動式の大規模淡水化装備など、災害に備えたハードとソフトのシステム的な開発にこそ税金を使うべきであろう。

＊＊

もう１つの問題は、２つの大方針を打ち出した朝鮮民主主義人民共和国（DPRK）の行方である。金正恩（キムジョンウン）総書記は、昨年末以来、①南北の統一政策の根本的な転換、②地方経済抜本改革を目指す 10 年計画「地域開発 20 × 10 政策」を打ち出した。いずれも神格化されてきた祖父・金日成（キムイルソン）や父・金正日（キムジョンイル）の政策を半ば批判しながら打ち出した趣がある。新生 DPRK 金正恩時代を刻印するかに見える。しかし、この２つの大方針は戦略的にどう繋がるのか、今のところ明らかではない。

①の統一政策に関しては、金正恩は昨年末の朝鮮労働党中央委員会において、金日成時代である半世紀以上前から掲げ、追求されてきた、自主・平和・民族大団結の３原則に基づく統一政策は失敗であったと総括した。米国の意思に逆らえず、もはや同民族の国家とは言えない現在の韓国と統一を目指すのは不可能であるとの結論である。そして、1 月に開催された最高人民会議においては、国境を憲法に書き込み、DPRK の領土の範囲を明記すべきであり、朝鮮半島には体制の異なる敵対する２つの国が存在することを明確にすべきだと提起した。

韓国の現在の憲法は、朝鮮半島全体と付属島嶼を国土と定義し、自由民主体制の秩序で平和的に統一する方針を述べている。つまり、DPRK が崩壊し平和的に吸収

するという方針と読める。韓国の保守政権の国防白書では DPRK は「敵」あるいは「主敵」と規定している。これらを前提として金正恩総書記は、最高人民会議において、自ら戦争を起こすことはないが、韓国が国境を 0.001 ｍｍでも侵せば、戦争に勝利して韓国を取り戻し統合すると憲法に書くべきだと述べた。

いっぽう、②「地域開発 20 × 10 政策」は、2024 年から毎年 20 か所（9 つある道（どう）すべてに各 2 か所を含む）に、10 年間続けて地域の特性に合った工場 (軽工業) を建設し、地域格差を是正しつつ全人民の生活・文化の向上を図るという意欲的な計画である。3 年目を迎える経済開発 5 か年計画の達成のためにも重要な年を迎える中で、それにはなかった大計画を並行して遂行するという高いハードルを設定したことになる。地域の労働力や原料資源を含む立地条件の科学的な分析に基づく立案と建設を要求し、朝鮮人民軍の投入も要求した。1 月の最高人民会議における金正恩の演説においては、この問題にもっとも多くのページ数が費やされた。

人民ファーストを謳いながら、DPRK の地方の人民の生活の窮状は隠しようもない現実であった。最高人民会議に続いて、この政策実行の具体策を論じた 1 月下旬の政治局会議において、金正恩自身、「全体的な地域経済は初歩的な条件もない惨状にある」と述べた。

この 10 年計画と格闘するには、戦争はもっとも大きな障害になるはずである。戦争どころではない。だとすれば、統一政策のドラスチックな転換は、分断の現状を固定し、大きな戦争を避けるための戦略ではないか？まだまだ推移を注視しつつ冷静に考え続けたい。

うめばやし ひろみち
1937年、兵庫県洲本市生まれ。ピースデポ特別顧問。長崎大学核兵器廃絶研究センター（RECNA）初代センター長（2012～15年）。

平和を考えるための映画ガイド

◆映画『ナポレオン』

「フランスの英雄」という存在――『ナポレオン』

超の付く有名人ではあるものの、どのような人物なのかよく知らない。私にとってナポレオンはそういう存在だったので、リドリー・スコット監督による伝記映画の公開を楽しみにしていた。フランス革命後の恐怖政治の時代、その途方もないカオスの底から這いあがるようにフランスの英雄となり、やがて即位して皇帝を名乗ったナポレオンとは、日本の歴史で言うなら豊臣秀吉といったところ。その最後も秀吉と同じようにナポレオンの栄華は次代へと受け継がれることはなく、ついには追放されて有名なセントヘレナ島への幽閉ののちにその地で没した。

ナポレオンを演じたホアキン・フェニックスの演技がとても良かった。どこか奇抜な、ケバケバしいような感じのするこの偉人を、感情を抑えた静かな演技によって理解しやすい存在にしてくれる。戦争シーンの目を見張るような映像美を合間に挟みながら、本作はナポレオンの妻であり、のちに皇后となったジョゼフィーヌとの関係を軸に展開する。ナポレオンは彼女との出会いによって幸運に恵まれたにも関わらず、子どもを授からなかったため離婚を余儀なくされ、代わりにオーストリア皇女を娶ったことで没落し始める。そして感染症による彼女の突然の死に伴うような形で完全に破滅する、というのが本作の大体のストーリーである。ナポレオンの成功を妻の神秘的な力に帰してしまうのは腑に落ちないが、実際ナポレオンの「王朝」はあっけなく潰えたのに、ジョゼフィーヌの血筋は前夫との間の子どもたちを通じてヨーロッパの諸王家に広がっていったらしい。特別な幸運は、本当に彼女のものだったのかもしれない。

本作は英国人監督による米英合作映画である。物語の終盤にジョゼフィーヌのもとへ駆けつけるためナポレオンが再び本土に上陸するシーンでは、どういう訳かヘンリー・パーセルのオペラ『アーサー王、またはブリテンの守護者』のアリアがかかる。その後ナポレオンはイギリス軍に致命的な敗戦を喫し、英領セントヘレナへ幽閉される。つまり、物語はイギリスの勝利で終わるのである。（うろこ）

『ナポレオン』
監督：リドリー・スコット
2023 年／アメリカ・イギリス／ 158 分

日誌

2023.11.16~2024.1.15

作成:前川大、役重善洋、山田春音
湯浅一郎、渡辺洋介

【核兵器・軍縮】

●11月16日　米ロッキード・マーチン、次世代長距離精密打撃ミサイルの生産認定飛行試験に成功と発表。

●11月27日　ニューヨークにて第2回TPNW締約国会議(～ 12月1日)。核抑止論が軍縮を阻んでいるとする宣言を採択(**本号参照**)。

●12月5日　国連総会、日本提出の核兵器廃絶決議案を賛成148か国で採択。

●12月5日　米・スウェーデン両政府、新たな防衛協力協定に署名。

●12月8日　長崎にて第3回国際賢人会議開催(～ 9日)。

●12月12日　第18回アジア不拡散協議(～ 13日)。

●12月12日　ニュージーランド新政権、AUKUS原子力潜水艦協定へ参加の可能性を示唆。

●12月15日　米国製イージスシステムが配備されたポーランドの米軍対ミサイル基地(レディコボ空軍基地)、運用開始。

●12月18日　米・フィンランド両政府、新たな防衛協力協定に署名。国境付近含め広範囲への米軍のアクセスを確保。

●12月19日　米・デンマーク両政府、新たな防衛協力協定に合意。米軍のデンマーク駐留等を許可。

●12月22日　国連総会、LAWSへの対応を「急務」とする決議案を採択。

●12月25日　ベラルーシ大統領、ベラルーシ領内核貯蔵施設への露の戦術核兵器の移転が完了したと発表。

●12月26日　上川外相、OSA拡充に向け外務省に「安全保障協力課」を新設する方針を表明。

●12月27日　露外務省、日本が米へ輸出する「パトリオット」がウクライナに供与されれば、日本は「重大な結果」を負うことになると警告。

●12月28日　露外相、新STARTの後継条約締結交渉は米による敵対的な対露政策の停止が前提条件と述べる。

●12月29日　ポーランド軍参謀総長、露のミサイルがポーランド領空を一時飛行と発表。

●1月4日　米NSC 戦略広報調整官、露がウクライナで北朝鮮から供与された弾道ミサイルを使用していると示唆。

●1月11日　露前大統領・安全保障会議副議長、ウクライナがロシア領内のミサイル発射装置壊滅を狙えば核兵器使用の理由になり得ると警告。

●1月12日　米国務省、露による北朝鮮からの弾道ミサイル調達に関わったとして、ロシア国営企業など3団体への制裁を発表。。

【安全保障・憲法】

●11月26日　PFAS汚染水、横田基地で140万リットル保管されていることが判明。

●11月29日　横田基地所属のCV22オスプレイ、鹿児島県の屋久島沖で墜落。乗員8人全員死亡(**本号参照**)。

●11月29日　宮崎県弁護士会、敵基地攻撃能力の保有は憲法9条違反とする会長声明を首相や衆参両院議長、主要政党に送付。

●12月5日　陸自、石垣駐屯地の施設を拡大する方針が判明。米軍との共同使用も想定。

●12月5日　空自築城基地で在日米軍再編に伴う日米共同訓練(～ 15日)。

●12月6日　米軍、屋久島沖事故の初期調査から機体の不具合が原因としてオスプレイ全機の飛行停止を発表(**本号参照**)。

●12月8日　空自新田原基地で自衛隊と在日米軍による大規模な共同訓練(～ 20日)。

●12月14日　米議会、2024年国防権限法採択。豪への原潜売却を許可。日本における米軍の指揮系統見直しの検討を国防総省に求める。

●12月22日　日本政府、「防衛装備移転三原則」を改定。地対空ミサイル「パトリオット」の米国への輸出を決定。

●12月22日　岸田内閣、ジブチの自衛隊が、中東・アフリカ地域での有事の際に日本人の保護や輸送を行えるよう任務を追加。

●12月22日　防衛省、近藤奈津枝海将補を女性として初の海将に昇任させ、大湊地方総監に起用する人事を発表。

●12月22日　防衛省、全自衛隊員に実施したハラスメントに関する特別防衛監察に基づき、計245人を処分と発表。

●12月29日　日本政府、自衛隊のレーダーに影響が出るとして、陸上での風力発電設備の建設を規制する新たな法案を2024年の通常国会に提出する方針を固める。

●1月12日　木原防衛相、数十人の自衛隊員が靖国神社を集団で参拝したことに関し、内部規定などを把握した後、厳正に対処すると表明。

【沖縄】

●11月17日　玉城知事、軍転協とともに政府に基地負担軽減と辺野古新基地建設を進めないよう要請。

●11月23日　沖縄を再び戦場にさせない県民の会、那覇市で県民大平和集会開催。1万人強が参集。

●12月7日　沖縄県議会、屋久島沖でのオスプレイ墜落事故につき抗議決議と意見書を全会一致で採択。

●12月18日　嘉手納基地を離陸したF-35ステルス戦闘機から部品が落下。

●12月19日　米軍、原則、伊江島で行うことで合意しているパラシュート降下訓練を嘉手納基地で強行実施。

●12月20日　福岡高裁那覇支部、辺野古新基地建設めぐる「代執行訴訟」で国の主張を認める判決(**本号参照**)。

●12月25日　玉城沖縄県知事、25日を期限に設計変更承認を命じた福岡高裁判決に従わず、承認しないと表明。

●12月26日　政府、土地利用規制法の対象となる候補地として沖縄県内の米軍施設17か所も含む184か所を提示。

●12月27日　沖縄県、外務・防衛両省に地元反対の中、嘉手納基地での米軍のパラシュート降下訓練強行に抗議。

●12月28日　斉藤国交相、沖縄県に代わって沖縄防衛局の辺野古新基地建設埋立て変更申請の承認を代執行。

●1月6日　世界各国の識者400人以上、「米日は沖縄の軍事植民地支配をやめよ」と辺野古新基地建設中止を求める声明発表。

●1月10日　沖縄防衛局、国交相の代執行を受け、軟弱地盤がある辺野古の大浦湾側の埋め立てに着手(**本号参照**)。

【朝鮮半島】

●11月21日　北朝鮮、軍事偵察衛星の打ち上げに成功(**本号参照**)。

●11月22日　韓国、南北軍事分野合意のうち、飛行禁止区域の設定に関する項目の効力停止を決定。

●11月22日　米国の攻撃型原潜「サンタ・フェ」が韓国済州島に入港。

●11月23日　北朝鮮、南北軍事分野合意の事実上の破棄を宣言。

●11月26日　日米韓、済州島東南の海上で合同軍事訓練。

●11月27日　国連安保理、北朝鮮の偵察衛星打ち上げを巡り緊急会合。

●11月30日　日米韓豪、北朝鮮国籍の8個人と1団体を制裁リストに追加。

●12月1日　韓国軍、米国民間企業のロケットを使用して米バンデンバーグ宇宙軍基地から初の軍事偵察衛星打ち上げに成功(韓国時間は2日)(**本号参照**)。

●12月4日　韓国、済州(チェジュ)島沖で国防省が開発中の固体燃料ロケットの打ち上げ実験に成功。

●12月15日　ワシントンで米韓核協議グループ会合開催(**本号参照**)。

●12月17日　米国の攻撃型原潜「ミズーリ」が韓国釜山に入港。

●12月17日　北朝鮮、短距離弾道ミサイルを1発を発射。

●12月18日　北朝鮮、日本海に向け固体燃料式のICBM「火星18号」を発射(**本号参照**)。

●12月19日　日米韓、北朝鮮のミサイル発射に関する情報の即時共有を開始

今号の略語

AUKUS＝オーカス
DPRK＝朝鮮民主主義人民共和国
IAEA=国際原子力機関
ICBM＝大陸間弾道ミサイル
ICJ＝国際司法裁判所
LAWS＝自律型致死兵器システム
NPT＝核不拡散条約
NSC＝国家安全保障会議
OSA＝政府安全保障能力強化支援
PFAS=有機フッ素化合物
新START＝新戦略兵器削減条約
TPNW＝核兵器禁止条約

したと発表。
●12月19日　国連安保理、北朝鮮のICBM発射で緊急会合。
●12月20日　日米韓が済州島東方の上空で合同空中訓練。米国のB-1BやF-16、航空自衛隊のF-2などが参加。
●12月26日　朝鮮労働党第8期中央委員会第9回総会拡大会議（～ 30日）。金正恩総書記が対韓国政策の見直しを指示。
●1月1日　尹錫悦大統領、新年の辞で今年上半期までに「増強された韓米拡大抑止体制を完成させる」と表明。
●1月2日　韓国軍、全海域で艦砲射撃訓練と海上機動訓練を実施。
●1月4日　米国政府、ロシアが北朝鮮供与の弾道ミサイルKN23をウクライナ攻撃で使用と主張。
●1月5日　北朝鮮、黄海の北方限界線（NLL）付近で海上実弾射撃訓練実施。韓国軍も海上射撃訓練で対抗。
●1月6日　北朝鮮、「砲撃模擬欺瞞作戦」を実施。北朝鮮は爆薬を爆発させたと説明。韓国は実弾演習と主張。
●1月9日　日米韓ウクライナ等48か国とEUが北朝鮮提供の弾道ミサイルがロシアのウクライナ攻撃に使用されたとして朝露非難の共同声明を発表。
●1月12日　北朝鮮、対韓国政策部門の実務会議で、南北関係に関わる組織を全て整理することを決定。
●1月14日　北朝鮮ミサイル総局、固体燃料を使用した極超音速の中長距離弾道ミサイルの発射実験を実施。
●1月15日　北朝鮮最高人民会議で祖国平和統一委員会、金剛山国際観光局、民族経済協力局の廃止を決定。
●1月15日　金正恩、最高人民会議で韓国を敵国と位置付けて憲法を改定することを提案。
●1月15日　日米韓、済州島南方沖で合同訓練（～ 17日）。
●1月15日　崔善姫外相率いる北朝鮮代表団、ロシアを訪問（～ 17日）。

【中東・イラン】
●11月19日　イエメンのフーシ派、日本郵船が運行する貨物船を拿捕。
●11月21日　米国防総省、イラク駐留米軍等が親イラン民兵組織からミサイル攻撃を受け、報復の空爆で民兵側数人を殺害したと発表。
●11月22日　イラク政府、米軍がイラク領内の親イラン勢力を攻撃したことについて主権侵害だと非難。
●11月22日　グロッシIAEA事務局長、定例理事会で核開発を進めるイランの監視受け入れが進んでいないとして「深刻な懸念」を表明。
●11月23日　カタール外務省、イスラエルとハマスとの合意に基づき、戦闘の一時休止が24日から始まると発表（12月1日に攻撃再開）。
●12月7日　イランのライシ大統領、モスクワを訪問しプーチン大統領と会談、2国間関係強化で一致。
●12月8日　国連安保理、パレスチナ自治区ガザでの即時停戦を求める決議案を否決。米国が拒否権を行使。
●12月12日　国連総会、ガザ地区での人道目的の即時停戦を求める決議案を採択。186か国中153か国が賛成。
●12月13日　ジュネーブ訪問中の上川外相、アブドラヒアン・イラン外相と会談。
●12月15日　中国の王毅外相、北京でサウジ、イランの高官と3者会談。
●12月22日　国連安保理、ガザ地区に対する人道支援の拡大と監視に関する安保理決議第2720号を採択。
●12月25日　イラン革命防衛隊のムサビ准将、シリアの首都ダマスカス郊外でミサイル攻撃を受け、死亡。
●12月26日　グロッシIAEA事務局長、イランが6月から実施していた高濃縮ウランの生産量削減を撤回し、11月末以降、増産に転じたと加盟国に報告。
●12月28日　米英仏独４か国、イランが高濃縮ウラン増産の即時停止を求める共同声明。
●12月29日　南アフリカ、イスラエルのガザ攻撃はジェノサイド条約違反としてICJに提訴（**本号参照**）。
●1月2日　ハマス幹部サレハ・アルーリ氏、ベイルート郊外でイスラエルによるドローン攻撃で死亡。
●1月3日　イラン・ケルマーン市の殉教者墓地で爆発、スレイマニ司令官の命日の追悼式参列者ら約100人が死亡。翌日、「イスラム国」が実行声明。
●1月8日　バグダッドの在イラク米国大使館にロケット弾による攻撃。
●1月8日　レバノン南部でイスラエルによる攻撃によりヒズボラのタウィル司令官が死亡。
●1月9日　イラン、ドローンやミサイルで紅海を通過する商船を攻撃。米英艦船が迎撃。
●1月11日　米英両軍、イエメンのフーシ派の拠点10カ所以上を巡航ミサイルや戦闘機で攻撃。
●1月15日　イラン革命防衛隊がイラク北部クルド人自治区にあるイスラエルの「スパイ拠点」を攻撃したと国営メディアが報じる。

【原発】
●12月2日　ウクライナのザポリージャ原発、外部からの電力供給が一時喪失。
●12月3日　国連気候変動会議にあわせ米国中心の「世界の原発を2050年までに3倍に増やす」宣言に日本も賛同。
●12月22日　定期検査で配管に傷の高浜原発３号機、運転再開。
●12月22日　政府、福島第1原発の事故処理費用の1兆9000億円増額を決定。総額は23兆4000億円へ。
●12月23日　共同通信の山口県上関町住民意識調査、上関町での使用済み核燃料中間貯蔵施設に「反対」59％。
●12月27日　原子力規制委、柏崎刈羽原発の運転禁止命令解除を決定。
●1月4日　世界初の第4世代高温ガス冷却炉原発が中国の山東省で商業運転を開始。
●1月9日　北陸電力、能登地震発生後、志賀原発に約1~3mの津波が複数回到達していたと発表。
●1月10日　東電、福島第1原発2号機で溶け落ちた核燃料デブリの試験的取り出しに向け、堆積物の除去作業開始。
●1月10日　東北電力、安全対策工事の関係で女川原発2号機の再稼働を数か月程度延期と発表。
●1月10日　原子力規制委、志賀原発の地震対策見直し必要か否かの検討を事務局に指示。
●1月15日　北朝鮮の金総書記、最高人民会議の演説で電力不足解消へ原発建設に言及。

【その他】
●1月1日　能登半島地震。石川県、陸上自衛隊に対し、珠洲市、輪島市、七尾市、志賀町、穴水町、能登町への災害派遣を要請。
●1月2日　羽田空港でJAL機着陸時に海保機と衝突。海保機5人死亡。JAL機の乗員乗客は全員無事。
●1月13日　台湾総統選挙。民進党の頼清徳氏が当選。

編集後記

本号は、期せずして平和教育にとって非常に大切な２つの記事を掲載することができた。第１は、長崎の被爆者である八木道子さんの被爆体験講話録である。八木さんは、小中高校の修学旅行生に優しく語りかける口調で話され、最後に「長崎に来たんだもん、平和のバトンを受けてください」と締めている。八木さんが「講話を聴いた後に資料館に入ってね」と言われるように、講話とセットにすることで、ただ資料館を見て回るのとは全く異なるインパクトを与えるであろうことがよくわかる。

第２は、ピースデポの最重要な刊行物である『ピース・アルマナック』を平和教育に活かそうとの試みにつき、松井ケテイ清泉女子大教授が平和学会で報告されたものをご本人の了解を得て掲載した。第五福竜丸展示館フィールドワークと講義をセットにした学習プログラムである。お二人に心より感謝申し上げる。（湯浅）

ピースデポの出版物
『ピース・アルマナック2023』

B5判、258ページ
編著：ピース・アルマナック刊行委員会
監修：梅林宏道
出版社：緑風出版

ウクライナ戦争と私たち
★年表／開戦直前プーチン演説／ゼレンスキー日本国会演説／戦争犯罪の捜査開始／安保理拒否権と国連総会／ブダペスト覚書／ミンスク議定書／市民の声
★巻頭エッセイ　栗田禎子：ウクライナ戦争と市民の運動
★注目新資料
核禁条約のウィーン行動計画／第10回NPT会議最終文書の議長案／北朝鮮のミサイル発射全リスト
★2022年解題：藤田明史／中村桂子／渡辺洋介／前川大／役重善洋／榎本珠良／河合公明／木元茂夫
定価 2700円（送料別）

●ピースデポ入会の案内

会員、賛助会員、年間購読者には、『脱軍備・平和レポート』（年6回）と『ピースデポ会報』（年2回）に加え、資料年鑑の書籍『ピース・アルマナック』をお届けします。

詳細や入会の申し込みはピースデポ HP をご覧ください。（http://www.peacedepot.org/joinus/member/）

[学生賛助会員：年 3000 円] もあります。

こちらの QR コードを読み込んでいただくとホームページの入会申し込み画面に移動できます。

●寄付のお願い

私たちの調査・研究活動は、平和・軍縮問題に関心を持つ、一人一人の市民によって支えられています。皆さまのご支援をお願いします。

北朝鮮の核兵器
―世界を映す鏡―

梅林宏道著
高文研: A5版、9月刊行

《序章》視座を正す／《第１章》初期の核開発／《第２章》束の間の春へ／《第３章》米ネオコン政治と６か国協議／《第４章》並進路線と戦争抑止力／《第５章》希望と期待／《第６章》核・ミサイル技術の現状／巻末資料／関連年表

定価2750円（税込み）
ピースデポ扱い：著者割2000円+送料

北朝鮮の核兵器とミサイル開発について整理・分析、国際政治の歴史と現状を明らかにしつつ、北朝鮮とは私たちにとって何かを考察する新機軸の書き下ろし論考。

●お知らせ

ピースデポ第 25 回総会記念講演会

日時：2 月 25 日（日）14 時 ～ 16 時
題目：ガザ、人間の危機
―歴史的背景と私たちの課題
講師：役重善洋（やくしげよしひろ）
（関西ガザ緊急アクション、ピースデポ研究員）
会場：明治学院大学白金キャンパス
本館 10 階大会議室
※オンライン併用
資料代：500 円
明治学院大学の学生・院生・教職員は無料
申込方法：会場参加：お申込み不要
オンライン参加：
右上のQRコードよりお申込みください。
（申込期限：2月22日）

お問合せ先：ピースデポ（渡辺）
メール：watanabeyosuke@peacedepot.org
電話：０４５－６３３－１７９６

『脱軍備・平和レポート』第 25 号
発行日 2024 年 2 月 1 日
発行元　NPO 法人ピースデポ
〒 222 － 0032　横浜市港北区大豆戸町 1020- 5 第 4 西山ビル 304 号室
TEL 045-633-1796　FAX 045-633-1797
E メール office@peacedepot.org
ホームページ http://www.peacedepot.org
【郵便振替口座】
口座番号　00250-1-41182
口座名称　特定非営利活動法人ピースデポ
【銀行口座】
横浜銀行 日吉支店
普通　1561710　トクヒ) ピースデポ

制作　NPO 法人ピースデポ
印刷　（株）野崎印刷紙器

編集委員
木元茂夫、役重善洋、湯浅一郎（編集長）、渡辺洋介

次の方々が本号の発行に
参加・協力しました
朝倉真知子、梅林宏道、北村明美、
木元茂夫、須賀祥枝、砂田正子、
前川大、役重善洋、山田春音、山中悦子、
湯浅一郎、渡辺洋介　※50音順